静岡県立中央図書館だより

文化の丘

令和元年冬号
（ISSN　1345-2282）

No.364

1　百年にわたる浙江図書館
　　この先新世紀へ（前編）
2　浙江図書館を案内します
3　昔へいざない
　　こんにちは　館長です
4　静岡県の図書館 Snap Shot!

特集　百年にわたる浙江図書館　この先新世紀へ（前編）

浙江図書館　開架閲覧室

浙江図書館　曙光路総館

浙江図書館　曙光路総館ロビー

静岡県は 1982 年に中国・浙江省と友好提携を結んでいます。静岡県立中央図書館も浙江省浙江図書館と友好提携を締結しており、図書の交換等を通じて友好を深めてまいりました。
この度、浙江省との友好交流事業の一環として、浙江図書館から孫暁清（そん　ぎょうせい）さんが来日し、当館にて 10 月から約４ヶ月の予定で研修をしています。今回、孫さんに浙江図書館の事情について寄稿していただきました。他国の図書館事情を窺い知ることができる滅多にない機会ですので、ぜひ御一読ください。

浙江図書館は、中国で最も早く設立された地方公共図書館の１つです。浙江省杭州市西湖区に位置する図書館総館は、国家レベル１の図書館の１つであり、最初の国家古書保護ユニットです。1900 年に浙江図書館の前身である「杭州蔵書館」が設立され、1912 年には中国初となる公共図書館専用の建物が落成しました。1937 年の中日戦争勃発時は図書館の移転や「四庫全書」の分散保管などにより保護の努力がなされ、1945 年の終戦により元の地に戻ってきました。1953 年には名称が正式に「浙江図書館」と決定され、1998 年に現在の曙光路総館が開館し、現在にいたります。

２面　浙江図書館を案内します▶

1900年　浙江図書館の前身である「杭州蔵書館」が設立される。
1903年　「杭州蔵書館」が「浙江蔵書館」に規模拡大・改築される。
1909年　浙江省公書局に統合し、「浙江」図書館を設立する。
1911年　文瀾閣および「四庫全書」の保存管理を始める。
1912年　孤山路に位置する「白楼」という中国初の公共図書館専用の建物が落成する。
1913年　「白楼」が総館として正式に民衆にオープンする。
1931年　大学路に位置する「大学路分館」が完成する。
1932年　「大学路分館」が正式にオープンし、総館となる。
1937年　中日戦争が勃発、総館は南田町（現温州市文成郡）に移転し、文瀾閣「四庫全書」は貴州省地母洞など各地に移転して保存される。
1945年　戦後、移転先から元の地に戻り、孤山路分館が総館として使用される。
1951年　有名な蔵書家、刘承幹（リウ・ショウ　カン）から江蘇省南浔市「嘉業蔵書館」（現湖州市南浔区）および当蔵書館における全部の蔵書を寄贈として受け入れる。
1953年　名称が「浙江図書館」に決定される。
1998年　現曙光路新館が竣工し、総館として開館する。

浙江図書館のあゆみ

浙江図書館組織図

浙江省図書館の既存の建物は５つあり、総館の曙光路館をはじめ、孤山路分館、大学路分館、嘉業蔵書館、德清書庫館からなっています。５つの総床面積は 5.51 万平方メートルで、そのほか浙江省全省には 17 の分館と９つの流通ステーションが設置されています。

浙江図書館は現在 700 万部以上の文献を有し、とくに貴重な古書が豊富で、地域資料が充実しているところに特色があります。蔵書のうち、古書（善書※15 万冊を含む）80 万冊以上、一般図書 510 万冊以上、古い新聞雑誌の共同本 95 万冊以上、現時点出版されている新聞雑誌 6,500 種類以上が含まれています。コレクションの彫刻版は 15 万点、電子書籍が 320 万冊以上収蔵されています。

浙江図書館　孤山路館

浙江図書館　大学路館

データベースは 190 件以上が利用可能、そのうち浙江家系図や地域誌など、特徴を持っているデータベースが 42 件あります。

浙江図書館　嘉業蔵書館

浙江図書館は、年間を通じて無料で開放され、1,800 席の閲覧席が設置されています。145 万部以上の中国語・外国語の図書雑誌を開架しています。

※善書…印刷の品質が高く、内容も価値を持っている貴重な古書

今号では、孫さんに浙江図書館の概要について紹介していただきました。次号では浙江図書館のサービスなどについて寄稿いただきますので、御期待ください。

県立中央図書館 開館インフォメーション

	本　館	えほんのひろば
開館時間	月、火、土、日、休日 午前９時～午後５時 水、木、金（休日以外） 午前９時～午後７時	午前９時 30 分 ～ 午後６時

	本　館	えほんのひろば
休館日	12月2、16、28～31日	12月5、28～31日
	1月1～4、6、20～31日	1月1~3、13、21~23、25、26日
	2月3、17、28日	2月4、5、11、24日

歴史文化情報センター

昔（いにしえ）へ　いざない

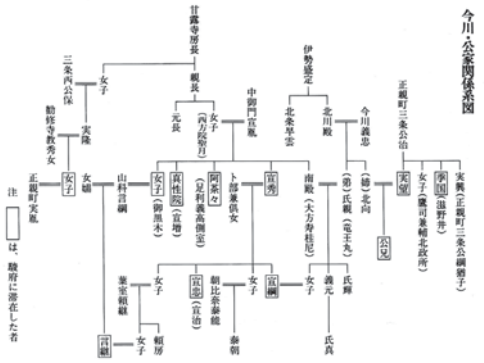
間もなく 2020 年を迎えます。来年の大河ドラマ「麒麟がくる」は戦国初期の群雄割拠の様相を描き、その時代を生きた明智光秀、織田信長、今川義元が登場し、目が離せない内容です。「昔へ　いざない」では直前の夏・秋号で今川義元の同盟・領国経営について紹介しましたので、今回は今川氏と公家の交流について紹介します。

今川家と室町幕府、公家との関わりと文化

応仁の乱以後、都の公家や連歌師たちは盛んに地方に下向し、公家の中には戦国大名や有力国人領主を訪ねる者、特定の大名のもとに永住を決め込む者もいました。駿河では今川氏を頼って下向し永住する公家がいて、これは今川氏との姻戚関係によるものでした。今川氏が公家と姻戚関係を結んだ背景としては、今川氏が関東に隣接する駿河守護であり、中央権力にとって重要な地域であったこと、足利家の分流である家柄で、中央権力との結びつきがあったこと、遠祖の今川了俊をはじめとした歴代の当主が公家との交流があったことが挙げられます。

中央権力との結びつきや公家との交流という点において、今川氏親は駿府にしばしば下向・滞在した姉婿である正親町三条実望を介して、朝廷だけでなく将軍からも信任を得ていた三条西実隆と交流を重ねていました。実隆は氏親に古典の贈答と氏親の詠歌の添削を行い、氏親は実隆に富士海苔や甘鯛などの駿河の特産物の贈答と金の贈与を行っていました。実隆は氏親からの贈答に対して「不慮の芳志なり、闕乏（けつぼう）の時分、聊（いささ）か息を蘇（よみがえ）らするものなり」と日記に表しています。

その他にも、駿河に半年ほど滞在した山科言継は伊勢物語などの写本を携え、お世話になった人に配っていること、絵師の狩野氏、観阿弥・世阿弥の観世座の能楽師など多彩な文化人が駿河を訪れ、京風の文化が伝わっていったとされています。



『静岡県史別編３図説静岡県史』106 頁から引用

静岡県立中央図書館　歴史文化情報センター　〒４２０-０８５３　静岡市葵区追手町９－１８　静岡中央ビル７階
電話　０５４（２２１）８２２８　ＦＡＸ　０５４（２５５）３９８８　メール　rekibun02@tosyokan.pref.shizuoka.jp

こんにちは　館長です

平成から令和へと移り変わった今年も残すところあと僅かとなります。

3月 14 日に再開した閲覧室も、利用者の皆様の御様子から、当館知的空間の中心としてその期待に応え、順調に役割を果たしているなと感じます。同時に、県域全体にわたり県民の皆様が「調べる、考える、解決する」ための資料収集と提供というルーチンワークも、県内公共図書館等との連携協力のもと、円滑に遂行されています。

ここ２年ほど中止していた中高生職場体験や大学生インターンシップも再開でき、令和元年は、当館が県立中央図書館としての従来の姿を取り戻した年となりました。

9月、10 月に当館で開催した三つの講演会もおかげさまで大盛況でした。

9月８日にスロヴァキアに在住の絵本作家である降矢なな氏、14 日にはラグビー界のレジェンド小野澤宏時氏の講演会を相次いで開催しました。

「絵本のこと。絵を描くこと」という演題での降矢氏のお話は、スクリーンに御自分の作品を映し出しながら、朗読も交え、また途中で、スロバキアでの御家族親族との和やかな日常生活も紹介していただきました。言葉の一つひとつを通して、創作に時間をかけ、工夫し、模索し、様々な思いを込めながら画材に向かわれる先生の息づかいも伝わってくる、楽しくて、考えさせられる内容豊かなお話でした。

小野澤氏の講演は「チームでうまくいくコミュニケーション　～ラグビーから学んだこと～」という演題で、単なる聴講式ではなく、お客様も参加して身体を動かしコミュニケーションを体得する、普段、経験できない楽しいひとときでした。その後、日本中を感動の渦に巻き込んだワールドカップの盛り上がり、参加した全てのチームの根本を支えたチームワークの形成に通ずるものを感じました。

10 月 20 日には、日本城郭協会理事である加藤理文先生による講演会を開催しました。加藤先生には６年連続で講師をお願いすることとなりましたが、今回は「駿府城　～豊臣・徳川２つの天守を探る～」と題し、2016 年から始まった駿府城天守台の発掘調査に関連し、徳川と豊臣の天守台が同じ場所に存在したことの歴史的価値や、その理由など、タイムリーな話題性を持ったテーマを、遺構や天守の復元図などふんだんに用いながら、立て板に水の口調で、満席の皆さまに堪能していただけました。

11 月 18 日には、静岡県図書館大会がグランシップで開催されました。今年度で 27 回となるこの大会は、静岡県教育委員会、静岡県図書館協会、静岡県読書推進運動協議会が連携し、県内の県市町立図書館、大学等の専門図書館が協力し実施運営する大きなイベントです。図書館が生涯学習の拠点として果たすべき役割や可能性を探り、読書活動の一層の発展を目指して研修し、「読書県しずおか」を全国に発信する機会と位置づけます。学校図書館を含めた県内の図書館関係者及び読書活動に携わる人々、広く図書館に関心を持つ方たちなど、毎年、千人前後の皆様が参加して盛り上がります。全国的に見ても、都道府県単位の図書館大会で、これだけの参加者が集う大会は他にありません。静岡県民の皆様の、図書館と読書活動、生涯教育への関心の高さを体感します。

今年度も、４月から何度も開かれた運営委員会の皆さんの丁寧な準備と打合せのおかげで、当日は午前中の全体講演（対談）、午後の六分科会とも、円滑に運営され、どの会場も熱気にあふれる充実した大会となりました。

すべての人に開かれた公共図書館には、現在、様々な可能性が求められています。不易であるべき機能をより一層充実させながら、新しい時代の期待にも柔軟に応えていく県立中央図書館でありたいと思います。

静岡県の図書館 *Snap Shot!*

協力車で訪問した市町立図書館の様子をご紹介します。

2018.11.28 富士市立富士文庫

2018.12.5 牧之原市立相良図書館

2018.12.12 浜松市立舞阪図書館

2018.12.19 富士宮市立西富士図書館

2018.11.22 浜松市立東図書館

2019.2.7 菊川市立小笠図書館

市町立図書館の振興のために、県立中央図書館は以下の事業を行っています。

- ▷ 協力車による運営相談や分館訪問を行い、図書館運営についてヒアリングや助言を行います。
- ▷ 各図書館の間で資料を貸し借り（相互貸借）する際の、情報と物流のネットワークを提供します。
- ▷ 各図書館で働く職員のスキルアップのため、公立図書館等職員研修を企画・運営します。
- ▷ 専門的な資料を収集し、市町立図書館の求めに応じて貸出（協力貸出）します。

編集・発行　静岡県立中央図書館　〒422-8002　静岡市駿河区谷田 53-1　発行日　令和元年 12 月 1 日
電話（代表）　054(262)1242　FAX　054(264)4268　https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp